

# 入間市長賞

税と寄り添いあって繋ぐ思い

上藤沢中学校 三年 竹澤 萌花

「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」この文は、全ての教科書の裏表紙に書いてある。だが、この文について深く考えたことがある人は、恐らくほとんどいないだろう。私もそうだった。それは、我々にとって、進級したら新しい教科書が配られるというのが至って普通のことだからだ。

私がこの作文を書くにあたって教科書の裏表紙に書かれているあの一文をきっかけとしたのも、今現在、私の視界に教科書があるからだ。それほどまでに我々の身近な存在である教科書。その支給に利用されている税金。税金とは我々にとってどんな存在であるのか、また、どんな存在であるべきなのか。この機会に考えてみることにした。

もし、教科書を自費で購入しなくてはならないとしたら。一般社団法人教科書協会の公式サイトによれば、中学校の教科書で最も高額なものは社会科の地図で、その値段は千円を超えている。そのほかも、教科や学年によって多少の差はあるが、ほとんどの教科書は進学するごとに買いかえなくてはいけないと思うと億劫になってしまいそうな代物ばかりだった。これでは、未来ある子どもたちの学習に大いに役立つはずの教科書によって家計が圧迫されてしまう家庭も

でてきてしまうだろう。もしも自分の家庭がそうなったとしたら。私はきつと、家庭内で肩身が狭いと感じてしまうと思う。

教科書が無償で支給されるから、我々は平等にのびのびと学習できるのだ。そう思うと、税金はとても心強いもののように思えてきた。

では、その税金は一体どこから発生しているのか。誰もが答えられる問いだろう。税金とは、我々国民が日々国や都道府県、市町村に納めているお金だ。

進級したら新しい教科書が配られる。それに慣れてしまった我々には至って普通のことのように思えるが、実はそれはほとんどの国民が正しく税金を納めることで成立しているすごいことなのだ。こうして税金の用途についての正しい知識を得ると、これからはもっと税金を納めている一人一人の人に感謝し、一人一人の意見を尊重していこうと思える。中には、税金を払うのが嫌だという人もいるだろう。だが、そんな人にもいざとなればそつと寄り添ってくれるのが税金だと思う。我々が日々誠実に税金を納めていけば、我々に困ったことがあったときに税金が誠実に助けてくれる。どんなに不景気な時代であっても、税金にはそんな存在であってほしいし、そうあるべきだと私は今回税金について考えてみて思った。

私はこれからも、税金を正しく誠実に納め続けたい。そういった美しい心を繋ぐことで、いつまでも教科書の裏表紙に書いてあるあの一文が残り続けますように。